

新聞に掲載されました！

第 95 回研修会（北海道・標津）の活動が
2016 年 2 月 10 日（木）の北海道新聞・2 月 14 日(月)の釧路新聞で紹介されました！

北海道新聞

北海道新聞

留学生から見た標津は 20人町内観光

【標津】外国人旅行者の受け入れ態勢を強化するため、留学生に町内の観光地などを巡ってもらい、感想などを聞く受け入れ事業が10日、町内で始まった。留学生の目線で町内の観光施設などを見てもらって長所や改善点などを洗い出し、今後の町の観光施策に生かしたいと考えた。

今回の事業は道観光振興機構の「留学生と創る外国人受け入れ基盤整備事業」として、町エコ・ツーリズム交流推進協議会などが実施。事業を通して得られた意見や情報を元に、外国人向けの観光体験プログラムや、指さし会話集の作成を行う予定だ。

今回は関東圏の大学などに通う中国、エジプト、ベトナム、フランスなどの20人の留学生が参加した。町内の一般家庭での2日間の



標津サーモン科学館で「指ハク」体験し、歓声を上げる留学生たち

(樋口雄大)

いと思つて話していた。一行は、16日に帰京する予定。

釧路新聞

釧路新聞



芋餅作りに笑顔を見せる留学生

芋餅作りなど体験

関東圏の留学生、標津で研修

【標津】関東圏の大学で学ぶ留学生らが、地域の文化や風土を体験する研修旅行が、町内で行われている。

留学生の支援や国際交流を支援する一般財団法人「共立国際交流奨学財団」（東京）の主催で、町エコ・ツーリズム交流推進協議会による受け入れは今年で5年目。同町での研修は夏季と冬季の年2回行われ、6泊7日の日程でさまざまな体験やホームステイを通して住民との交流を図る。

今回は、中国やサウジアラビア、フランスなどの留学生20人が参加。一行は10日に来町し、11日には町生涯学習センターで地元産シヤガイモ「花標津」を使った芋餅作りに挑戦。白どきに興味津々の留学生たちはしきりに撮影しながら、北海道らしい郷土料理を楽しんだ。

エジプト出身で4カ月前から東京外語大で学ぶシルウィーティ・サラさん（19）は「日本の漫画や折り紙が大好き。魚は苦手だったが、標津の魚は驚くほど

おいしい」と笑顔を見せていた。

一行はこのほか、スノーシューやスキーなどを体験。16日まで滞在する。

一方、北海道観光振興機構の補助を受け、町観光協会が「留学生と創る外国人受け入れ基盤整備事業」を実施。滞在中の留学生に協力してもらい、現在作成中の指さし会話集や体験プログラムなど、外国人目線で気付いたことやアドバイスなどをまとめ、今後のインバウンド（訪日旅客）対策に活用する。

(原田未央)